

滋賀の出版文化情報誌

デュエット

Duet

2010 夏

vol.101

座談会

『菩提寺歴史散歩』編集中

湖南市菩提寺 儀平塾

新撰 淡海木間撰

45

廃少菩提寺閻魔像

MYBOOK

自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS

サンライズ出版の新刊案内



座談会

菩提寺山（別名：龍王山）の東麓に広がる湖南市菩提寺地区は、良弁開基の少菩提寺に由来する名を持ち、多くの石造文化財が残されている地でありながら、名神高速道路の建設以降は京阪のベッドタウンとして新興住宅地が形成され、人口が急増した地域です。

開発による変貌が進むなか、地域の歴史をこつこつ調べてきた鈴木儀平さんの講義をもとに、住民の有志が地域史をまとめる作業を行っています。完成を見ずに鈴木さんが昨年死去、遺志を継いで編集作業に取り組んでおられる皆さんにお話をうかがいました。

『菩提寺歴史散歩』編集集中



儀平塾塾生の皆さん

前列 右から

岡本明一さん（67歳）

木本定利さん（72歳）

故鈴木儀平さん遺影

植中みやこさん（65歳）

廣瀬 保さん（67歳）

後列 右から

岡島敏広さん（54歳）

西山英資さん（67歳）

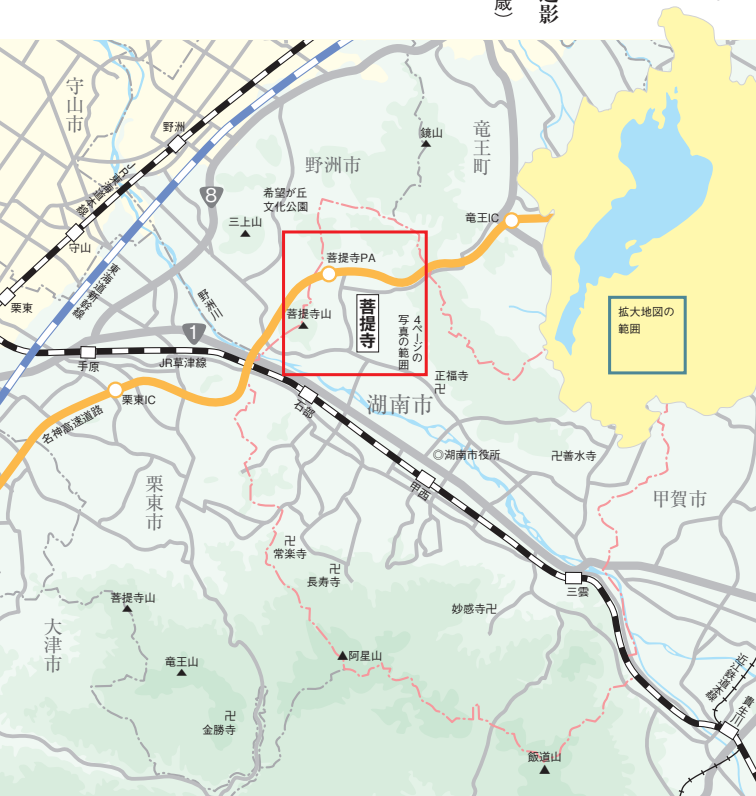
田中宏明さん（70歳）

出席できなかったメンバー

森園俊郎さん（69歳）

目次 弘さん（67歳）

平塚明美さん（61歳）



菩提寺山（別名：龍王山、標高353.3 m）を東から望む。右奥に頭を出しているのは三上山



まちづくりのための何かがほしい

▽まずは、皆さんが鈴木儀平さんにお話を聞く儀平塾がどのような経緯で始まったのかをお教えいただけますか。

木本 鈴木儀平さんと初めてお会いしたのは、新興住宅地で発行していたミニコミ誌に、菩提寺の歴史について書いていただいた時で、もう20年以上前のことです。まだ私も現役だったこともあり、菩提寺の歴史にそれ以上関わることはなかったのですが、その後も何か催しがあれば、鈴木さんに歴史の話をお願いしたりしていました。

それが平成20年（2008）の春頃、儀平塾という場をつくり、地域の歴史をまとめようということになったんです。菩提寺の歴史について関心のある住民への講演をテープに録音して、それを原稿に起こすという形です。その時点で、録音のテープ起こしを手伝える方はいませんかというお願いをして、集まったのが、儀平塾のメンバーなんです。今日は参加できなかった方も含めて、約10名います。

▽今日、集まっている鈴木さんのお宅でやってもらったわけですね。

西山 あの時にタイミングがよかったのは、その前年（2007）、湖南市の提唱で市内七つの学区ごとに「まちづくり協議会」^{※1}をつくろうという動きが起ったんです。今、塾のメンバーである田中宏明さんが当時菩提寺学区の学区長で、まちづくり協議会をつくるにあたって、「やつぱり歴史というのは大事やで」ということをあちこちで非常に熱心に言われたんですね。

木本 私もその時に田中さんとお会いして、田中さんを通じていろいろ声をかけていただいて。まちづくり協議会でも地域の歴史に目を向けようという形になったので、よ

かったかなと思います。

田中 湖南市だけでなく、全国的に取り組まれていることだと思いますが、今までの区、自治会という区切りではできないことに制約があるというので、範囲を広げて学区のレベルで地域づくりをやっているという動きです。菩提寺学区には七つの自治会（区）、二つの小学校があるんですが、その七つの自治会は、もともとの菩提寺という在所が一つと、後の六つはすべて昭和40年代後半にできた新興住宅地なんです。つまり、成り立ちや構成員にいろいろな面で違いがある自治会が一つになってまちづくりをしようというわけです。その際に接着剤^{※2}というか、一体にするための何かほしい、地域の歴史はその一つになるんじゃないかと考えたわけです。

▽地名とすぐそばにそびえる山の名前にもなっている少菩提寺^{※2}は、奈良時代から室町時代にかけてかなりの大寺院で、国史跡の多宝塔や石仏も残されていますからね。

田中 鈴木さんにお会いしたのは塾が始まった時が初めてでしたし、それまでは歴史なんか興味なかったんです（笑）。ところが、ちよつと足を踏み入れてみると、本当に面白い地域だなと思うようになりました。

メンバーの出身地はいろいろ

▽つづいて、儀平塾の塾生の皆さんの自己紹介をお願いします。先日、初めてうかがった際、木本さんは四国のお生まれで、他の塾生の方も出身地はいろいろで、この地に移り住んでこられた方がほとんどです。菩提寺は、もともと200戸ほどの集落だったのが、昭和40年代以降の住宅団地の造成によって、現在約4000戸、人口は

※1 まちづくり協議会 平成19年（2007）、滋賀県湖南市によって市内七つの学区に対して設立が提唱された組織。市民自らの参画と協働のもと、「地域でできることは地域で」実施し、広域コミュニティとしての役割を担う。

※2 少菩提寺 天平3年（731）、良弁僧正によって菩提寺山東麓に開基されたと伝わる寺院。大菩提寺とも称された金勝寺（栗東市）^{（1）}に対して名づけられた。30以上の建物をもつ大伽藍があったと伝わるが、元龜年間（1570〜73）に織田信長と六角氏の戦乱に巻き込まれて焼失、廃寺となった。

※3 国史跡 廃少菩提寺石多宝塔および石仏 少菩提寺の遺構とされる左記の石造物で、一括して国の史跡に指定されている。

石多宝塔（写真左）：高さ4.5m。鎌倉時代の銘文が刻まれている非常に貴重なもの。地藏菩薩像3体（写真下）：中央の1体が鎌倉時代、両側2体は南北朝時代の作とされる。閻魔像：9ページ参照。



1万人以上になっています。つまり95%は新住民だという地域で、通常の字史とは違う特徴だと思っています。簡単に結構ですので、それぞれのご経歴を。まず木本さんは、先ほどのお話でミニコミ誌をお作りになっていたということですが。

木本 「みどりの村」（4ページ航空写真参照）ができたのが……昭和47年（1972）



湖南省菩提寺の航空写真（平成13年頃撮影）

ですか。私は製薬会社に勤めていたのです
が、昭和52年（1977）に来たんです。
ミニコミ誌は、息子が小学校5年生の時に
PTAの会長になったことがきっかけでし
た。翌年が菩提寺小学校創立10周年にあ
たっていて、その記念事業などのために役
員として残ってくれと言われて。京阪神か
ら移り住んでこられた芸術家の方なども多
かったので、その作品などを展示させてい
ただき、何とか成功裡に終えることができ
ました。

その時に、地域のコミュニケーションを
深めるためにミニコミ誌があってもいいん
じゃないかという意見が出て、有志の方た
ち、これもやはり10人ぐらいが編集委員を
務めて地域の出来事などを紹介する誌面で
6、7年続きましたかね。隔月で40号ぐら
いまで発行しました。

▽ええと、年表によると、菩提寺小学校の
開校が昭和55年（1980）。お子さんの
入学が開校してすぐくらいにあたるんでき
か。

木本 息子が小学校入学の2年前に菩提寺
小学校ができたんです。それまでは今の保
育園がある場所に町立岩根小学校の分校が
あって、そこに通っていたようです。いろ
いろ変わったんですが、当時は小学2年生
までは分校に通って、3年生以上は4kmほ
ど離れた岩根の本校に行く形でした。

▽さらに、平成7年（1995）、名神高
速の北に菩提寺北小学校も開校しています。
岡本 私は昭和56年（1981）に京都府
から北山台（航空写真参照）に移ってきま
した。京都にあった勤務先はそのままで。

特にここ菩提寺の歴史に関心があったわ
けではないんですが、たまたま儀平塾がで
きる時に、そちらにおられる廣瀬さんが、
ぶらっと家に遊びに来られて、「こんな

やるんだけれど、入らないか」と。私は、メー
ル友達と古代史のことでやりとりをしたり
歴史好きではあったんです。現在体調をく
ずしているんですが、この儀平塾のお手伝
いぐらいだったら何とかできるんじゃない
かという思いもあって。今は毎週日曜日を
楽しみにしている状態です。

岡島 私は、名神高速道路と山に囲まれた
サイドタウン（航空写真参照）という、こ
の辺の団地では一番先にできた所に住んで
います。

▽一番奥の方が先に造成されたんですね。

岡島 もともとは別荘地として売り出され
た地域で、三角屋根のバンガローというか
別荘風の家に自家用車をつけて売り出され
たんですよ。だからサイドタウンの自治会
のマークは三角屋根に森をあしらったかつ
こいいデザインのものです。私自身が移っ
てきたのは、平成2年（1990）、ちょ
うどバブルの時に、大阪のマンションに住
んでいたのですが、趣味が花づくりだった
せいもあり一戸建てを探したところ紹介さ
れたのがここでした。しばらく大阪の製薬
会社へ通勤しましたが、合併や移転があっ
て、この近辺の製薬会社に転職しました。

▽岡島さんだけ、まだ現役なんですね。

岡島 きつかけとして、菩提寺の安部正
毅住職を案内役に地元を歩く催しに参加し
て、この菩提寺自体もなかなか歴史が深い
なと思ったことがあります。ちょうどそう
いう時に「儀平塾があるよ」というのを聞
いてきた妻に、「参加してみたら」と言わ
れて。最初は妻にもついてきてもらいまし
て（笑）、いっしょに鈴木さんのお話を聞
いてたんです。仕事もあるので、続かない
かなとも思ってたんですが、やっぱり知る
ことで刺激を受け、さらに知りたい気持ち
も起こるので続いています。

西山 私は北山台に住んでいます。昭和51
年（1976）に来ました。北山台が開
発されてすぐ、第1期生の入居の時だと思
います。それまで大阪に住んでいました
が、娘が小児ぜんそくだったので、「転地
療法をしなくちゃいかん」と医師に言われ
て。候補地になった三重県とここを比べた
時に、こっちが安かったんです（笑）。

現役時代は単身赴任も含めていない時期
が多かったもので、地元のことについては
ほとんど知らない状態でした。それが定年
後、借りた畑で家庭菜園をするようにな
ると、農家だったおじいさんらが、何百年か
前に大変な洪水があつて、たくさんの方が
流されたといった話をしてくれるんですよ。
そんな頃に、木本さんから儀平塾の話を知
いて、当時の田中区長からまちづくりにつ
いての話もあつて、入ったんです。

田中 もう一つ言っておいた方がよいと思
うんですが、まちづくり協議会は、菩提寺
山（龍王山）に「歴史の小径」というのを
整備中で、丸太の橋や階段、立て札などの
整備と周りの花樹の植樹などが、地域の皆
さんのボランティアの力を借りながら進め
られています。立て看板や配布物の制作に
は、「儀平塾」としても協力しています。

▽菩提寺山の東側の「室ヶ谷」から登るの
が普通になつていて、南側からの登山道は
廃れていたんですね。

西山 それが今では子供たちでも簡単に登
れますし、案内板でそこがどういう場所か

※4 「歴史の小径」 国史跡「廃少菩提寺石多宝

塔」から山頂へ向かうルートは、ずっと地元
住民が使わないケモノ道となっていたが、平
成21年（2009）2月から菩提寺まちづく
り協議会が整備に着手、「歴史の小径」と名づ
けたハイキングコースとするため生い茂った
木々の伐採や丸太の階段の設置などが行われ
ている。

というのわかるようになったので、歴史に親しむという点で、具体的に一歩も二歩も進んだと思います。

田中 僕も北山台の1期で、昭和50年（1975）の入居です。もとは木がいっぱい生えた丘陵地だった所で、昭和48年ぐらいから開発が始まったそうです。勤め先は京都にあった製造業の会社で、ずっと通っていましたが、50歳代半ばでリストラにあい、その後8年ぐらいこの近くの工場にいました。現役の間は会社人間で、自治会のことも、子供の教育も、全部嫁さん任せでした。そうはいっても、自治会の役員が3回ぐらい回ってきて、男手のいる仕事などに出ていました。

会社を退職してからは、これまで家族ぐるみで地域にお世話になったお返しとして、地域のことには積極的にいろいろやらせてもらっています。

廣瀬 私も北山台です。それまでは大津の石山に住んでいて、昭和55年（1980）に移ってきました。ちょうど今年で30年です。勤めは大阪で、毎日通っていました。ここからだと、野洲駅やすから石部駅いしべに出て、毎日往復4時間の通勤でした。

田中 ほんとに便利の悪いところですよ。▽ベッドタウンになっているわりには。

廣瀬 そんなことで、ほとんど地元のことには関わったことがなかったんですが、定年になったので何かやろうと。この儀平塾にも入ったんですけど、歴史はまったく興味ないんですよ（笑）。パソコンの入力だとか、写真を撮ったりだとかは少しはお手伝いできるかなと思って。

木本 古絵図の上に文字を打ち込む作業などをしていたんでいます。

植中 私も北山台なんです。来たのは昭和52年（1977）の今ぐらいの季節でした。

うちは子供の一人が障害児だったもので、できるだけその子が生きやすいまちに住みたいと、子供が1歳半の頃に大阪の南河内の社宅からこっちに来ました。

この8年ほど、「生涯学習ボランティアまなびす」という、教えたい人と学びたい人を結びつけて講座を開くなどのボランティアサークルで活動しています。そこで菩提寺にある正念寺の乾憲雄住職や鈴木先生の歴史講座を聞きました。

それとは別に、奈良の橿原神宮かしはらの近くに住んでいる私の姉は、夫を亡くしたことで鬱状態になり、月の半分ぐらい我が家に来ていたんです。その姉も歴史が好きで京都

▽それでは、鈴木儀平さんについての想い出、ご存じのことをお話いただけますか。

田中 この部屋で初めて鈴木先生のお話を聞いて、まずは記憶力にびっくりしました。年代から何から全部覚えておられるから、でも、郷土の歴史を調べるようになられたたのは、かなりの歳になってからだそうですね。

木本 郷土史に関わるようになられたのは、60歳過ぎてからとお聞きしています。その後、県の城跡調査などに参加なさいました。▽略歴によると、65歳から10年間、県の世城郭分布調査員をなさっていますね。

木本 それから、石碑の拓本たつぽんをとるといいう仕事もやられて、拓本の公募展で文部大臣賞を受賞なさったりしています。鈴木さんに拓本の技術を教えてもらいに通ってこられる生徒さんもたくさんおられました。

西山 拓本を一つとるのでも、足場を組む必要があるの、手間も費用もかかりますよね。

岡島 県立図書館にもよく通っておられた

※5

乾憲雄 真宗大谷派正念寺第19世住職。滋賀県俳文学研究会会長。平成19年度地域文化功労者文部科学大臣表彰を受賞。『淡海の芭蕉句碑（上）（下）』（サンライズ出版）、「近代の俳画と俳句」（京都書院）など著書多数。

正念寺は、文明14年（1482）、少菩提寺の一坊だった東光坊の跡地に、本願寺連如に帰依した乾秀盛が開基した。

巡りをしていたりしたんですが、地元でこういう会があるというので、姉といっしょに参加したのが儀平塾のきっかけでした。最初は、パソコンを使って原稿を作る作業に自分がついていけるか心配だったんですが、まあほとんどの方は同じようなレベルだったので（笑）。

調査地は危険地帯

というのを聞いてますね。いっぱい写真を複写してられています。

木本 ハゲ山に植栽している写真などでも、地元の菩提寺には残っておらず、県立図書館所蔵のものを見せてもらう必要があったんです。

とにかく鈴木先生は、実際に歩いて調べるといことをなさっています。口で言うのは簡単ですが、古墳の跡や、鼻白岩はなしろいわと呼ばれる岩など、ご存命の間に連れて行ってもらう機会はなかったものですから、自分で探しに行ってみたんですが、わからないんですよ（笑）。木がいっぱい生えていて葉が落ちた冬場に行ってもわからない。波岩なみいや、仏足石など、どれもこれもかなり険しい場所なんです。波岩は、そばまでは行けず、対岸から見たんですが、シダなどが繁ってあんまり見えないんです。化石燃料を使う時代になってからは山に入らないので、荒れ放題ですね。

▽それで、鈴木さんが健康で体力のある方だったのかと思うと、62歳で心臓のバイパ



鈴木儀平氏 略歴

- 大正7年(1918) 甲賀郡岩根村大字菩提寺に生まれる。
昭和6年(1931) 滋賀県立農事試験場に奉職。
〃 11年(1936) 神戸市立林田商業学校入学。
〃 13年(1938) 徴兵。陸軍現役兵として朝鮮平壤へ。
〃 20年(1945) 除隊、帰郷。
〃 23年(1948) 菩提寺広野開拓地に入植。
〃 24年(1949) 日本基督教団草津教会で洗礼。
〃 54年(1979) 狭心症発作。心臓バイパス手術を受ける。
〃 58年(1983) 滋賀県中世城郭分布調査員(～1992年)
平成元年(1989) 甲西町野洲川河原の足跡化石編集委員(～1990年)
〃 3年(1991) 甲西町歴史民俗資料調査収集委員会委員(～2001年)
〃 19年(2007) 「全国公募展—絵になる拓本展—」で、文部科学大臣賞受賞。
〃 20年(2008) 「儀平塾」開始。
〃 21年(2009) 3月、膵尾部癌のため死去。満90歳7カ月。

◀甲西町(現、湖南市)岩根にある善水寺・行者像の前で(昭和60年頃)

- ※6 拓本 木・石・器物などに刻まれた文字・文様を紙に写し取ったもの。また、その技法。紙をあて、刷毛で湿らせて密着させたのち墨をふくませたタンポで上からたくやり方が一般的である。
- ※7 鼻白岩 菩提寺山の南東部にある巨岩。ハゲ山だった時代には、遠くからでもよく見えたと伝わる。
- ※8 波岩 菩提寺山の南麓の小山「合陳山」にある地殻の褶曲作用によって波形の模様が生じている奇岩。古地図にも記載される。
- ※9 仏足石 石灰岩の表面に足跡形の凹みが生じている奇岩。江戸時代の博物学者・木内石亭の『雲根志』に記載されている。

ス手術をなさってますね(左上略歴参照)。

木本 山間部の調査にはお一人で行かれる場合もあるし、奥さん同伴で行かれた場合もあったそうです。心臓を患われていて、ペースメーカーも入れておられたんです。何か無理をすると倒れる可能性もあったので、奥さんにつきそってもらわれたんです。▽胸にペースメーカーを入れておられたんですか。

木本 そうです。普通だったらやらないですよ(笑)。それぐらい執着があったということなのでしょう。

▽今の段階での原稿を読ませていただいて、テーク起こしから始まっているせいで、語り口調の部分も多くて親しみやすいと思いました。同時に説明の中に、たまに鈴木さん個人の記憶が挿入されている箇所があった

▽ではもう一度、木本さんから順番にお聞きしたいのですが、地元の歴史を知ってみて、何のお話が一番面白かったですか。

木本 鈴木さんが撮影してこられたスライドを見ながらのお話を10回ぐらいやっていただき、すべてをテープに録音しました。その1回分ずつを塾生それぞれがテープ起こしを担当して原稿整理や校正もしていくという形をとったので、自分が担当した所が一番興味があるということになるんじゃないでしょうか(笑)。

私の場合は、神社・仏閣の部分を担当したのですが、皆さんもおっしゃっていたとおり、ほとんど知らないわけです。それを改めて認識できたというのは収穫でした(笑)。例えば、神社の一つである斎神社なども単に一つの神社としてだけでなく、少菩提寺があった当時にどんな役割をしていたかということがわかったりしました。

地域の歴史を教わってみて

て生々しいですね。

菩提寺山の南麓にある石灰岩でできた合陳山には、生石灰を生産するための大きな焼成窯があつて、「それを覆うバラックの屋根の大きかったことにびっくりし、そこで働いておられた人たちが小さく見えたのを、子ども心に覚えていました」とあります。あるいは、「共同墓地と火葬場」の説明では、昔の火葬の仕方などに続いて、一度に一番たくさん火葬したのは、昭和26年(1951)5月に甲西中学校に通っていた生徒が事故で亡くなった時だとおっしゃっています。

「棺を3基ずつ2列に並べて6人を同時に火葬しました」とあるのはその場にいた人でないと知らないことで、数十年前に引き戻されたような強い印象が残ります。

岡本 私は、全部が面白かったですね。よく、歴史を忘れた国、国民が発展した試しはないとすら言われるわけですが、元禄時代の学者の荻生徂徠は、「見聞を広めて歴史を究めることが学問である」とまで言い切ってますし。それから、こないだ滋賀県の郷土史家であつた中川泉三の業績を紹介した「史学は死学にあらず」というタイトルの展覧会が栗東や長浜の博物館でありましたが、儀平塾に来るようになってから、その言葉の意味がわかってきたというか……。

一同 おつ、それはすごい(笑)。

岡本 (笑) ほんとに温故知新といったことの意味が少しわかってきた気はします。もう一つ、私の田舎は丹後なんですけど、そこで出された村史を父が送ってくれたことがあつて、読むとものすごく懐かしかったんです。ですから、菩提寺から出ていった子供たちにも親御さんが送ってくださった

らしいだろうなと思っています。

岡島 私の場合は、住んでいるサイドタウンに昔あったとされる八王子神社はどんなものだったのが、今でも気になったままだです。山崩れがあつて、神社が埋まつてしまつて現在は北山台の入口の場所に移つていますが、石林村^{きんばやし}という村もやはり山崩れで埋まつてしまつて、住民たちは今の菩提寺小学校の近くに移り住んだという歴史もあります。今回鈴木さんのお話をもとにした文章をまとめ、現地を実際に歩いてみて、高台のこの辺にあつたんだらうなと想像しては楽しんでいきます。

西山 私は、担当した龍池藤兵衛^{たうけいへいゑ}さん^{※10}の事績ですね。立命館大学で昨年1年間、社会人と学生とのボランティア・コーディネーター養成講座というのを受講してしまつて、そこで、「ボランティアとはなんぞや?」ということから教わつたのですが、外国はこれこれに進んでいて、日本はまだまだ：という言い方ばかりする先生がおられるわけですよ。でも、僕は、菩提寺では龍池藤兵衛さんがハゲシバリの苗を植えて土砂崩れを防いだ例がある、社会に奉仕する行為は日本で実践されてましたよ、先生方も日本の昔にまでさかのぼつてお調べになつたらどうですかと言つたんですよ（笑）。

藤兵衛さんが生きたのは、江戸から明治への変わり目で、日本にもお金がない時代です。特に土砂崩れなどの被害を受けていたこの地域は貧しかったから、ああいふ人物が出てきたんでしょうが。

▽明治後期に、野洲川の渡し船を私費で運営した井上嘉吉さんの事績も詳しく紹介されていました。こうした山や川などの自然環境との関係は、今では想像もできない面がありますね。

西山 菩提寺の東を流れる高田砂川^{たかだすな}も、名

前のとおり水といつしよに土砂が流れてくるから住民は川底の土砂をすくつて横に積み上げる必要があつたそうです。流れてくる、底を掘る、積み上げる、この作業が戦後コンクリートで固められるまではずっと続いていったそうです。

田中 私の場合、先ほどの話にも出てきたように、鈴木先生は調査の山歩きに奥様も連れていかれたそうなんです。合陳山にすぐ急な斜面があるんですが、そこを調べる時には、命綱のロープを奥様に持つてもらつて、「軽くなつたら、わしはもう落ちたのだから、お前は一人降りてくれ」と言つておられたそうで、本当に身の危険も顧みずという感じだったわけです。そこまで先生を突き動かしたものは何だったのかあと、思います。かなりの年齢になつてからというのも含めて、普通の努力じゃないですね。その辺のことを、生前直接お尋ねすることができなかったのは残念だなと思います。

▽鈴木儀平^{ぎへい}さん自身に、一番驚いたということですね。

木本 少しだけふれてなかったかな。戦争へ行つてる時に、お母さんから手紙で故郷のいろいろなことを知らせてくれたと。それで帰郷してから故郷のことを調べるようになったと、そんな話が、テープ起こしの中にも入つてなかったかな。

廣瀬 さつき岡本さんが言つたように、菩提寺出身の人は外に出てから、菩提寺の偉大さがわかると思うんですよ。私の従兄弟が長浜の国友に住んでるんですが、外に丁稚奉公^{ていしほうこう}に行つて、「国友」という地域は火縄銃を作つていたところだということを知つたそうなんです。その後、火縄銃を集めて、研究会を立ち上げ、今は自分で火縄銃を作つたり、江戸時代の科学者として知られる国友一貫齋^{いっくさう}の天体望遠鏡を京大の先

※10 龍池藤兵衛 天保11年（1840）、甲賀郡菩提寺村に生まれる。明治5年（1872）戸長・村長にあたる。となつて後、菩提寺山の治山事業にあたる。約300haのハゲ山の植林を計画し、失敗をくり返しながら、全山緑化に成功した。

※11 ハゲシバリ カバノキ科の植物ヒメヤシャブシの別名。根に根粒菌が共生していてやせ地でもよく育つため、ハゲ山の緑化に用いられた。龍池藤兵衛が、明治17年（1884）水田を用いて栽培に成功、菩提寺とその周辺で大量生産が行われ、他県にも輸出された。

生方にも協力してもらつて復元したりしています。

植中 私は、「暮らし」と章立てされた「菩提寺蹟の変遷^{かち}」という部分を担当したんです。この近くにお住まいの戦後に入植したという知り合いがおられるんですが、そのお話からすると、先達^{せんた}のしてこられたことは、すごいなあと思つています。本当に昔の方のあれこれがあつて今の状態があるんだなあというのを思いました。

それと、今の小学生たちに、地元の歴史、ふるさとのことを教えてほしいですね。娘の一人は北海道にいます。北海道は多くが明治以後の開拓で、歴史は浅いけれど、人口数千人ほどの小さな町でも、町史などで自分たちの歴史を大事に記録なさつてるんですね。今、孫もいますが、その孫に母親のふるさとはこんな所だったんだよというのを伝える意味で歴史散歩が完成したら送つてやりたいと思いますね。

▽今の時点では、今年秋には完成を予定なさつてるんですけど。

田中 その前にPRのチラシを作つて、予約を回してみてもいいかな。どのくらい読みたいと思う人がいるのか、わからないし。▽完成を楽しみにしております。本日はお集まりいただき、ありがとうございました。

（2010年4月25日）

廃少菩提寺閻魔像

儀平塾主宰

鈴木儀平



いる論され、修行を助けられるのが閻魔さんですが、地蔵さんの化身が閻魔さんです。

この閻魔さんは「血噴き地蔵」と呼ばれています。江戸時代に土砂流でうつ伏せに倒されていた石を石屋さん、これはよい石だと思って割ったところ、帰ってから肩が痛くなって、石から血が流れている夢を見ました。翌朝早く、石を見に行つてびっくり返してみたところ石像が彫つてあったといういわれによるものです。

地蔵菩薩は子供を救うとか災難を救うという意味で彫られます。また、地獄に送るとか極楽へ導くためにいろ

閻魔さんは、ほとんどが絵に描いてあるか木彫りです。石彫りは国内にほとんどなく珍しいものです。右側3分の1は別石で修復されています。いわれのように石を割つてしまつたので、残る部分に合うように彫つたものですが、修復に用いた石の質も厚さも元の物とは異なり、近くで見ると時代の違いがはつきりとわかります。これは離れないようにくさびが打つてあり、裏には穴が開いていて、鉄の股釘を差し込めるようにしてあります。

写真の右側の像は、合掌している僧形、左側が阿弥陀仏です。下の段には、右側に錫杖と宝珠を持った地蔵、左側は袈裟を斜めにつけて数珠を持った僧形です。全体の形として将棋の駒形というのは珍しいものです。

下段中央には

浄西院秀阿弥陀仏行大徳宗舜

敬白

と彫られています。裏に「延長二年甲申」（西暦では924年）とあったそうですが、今は読めません。

在所の一番下の村を寺村町といいますが、この人たちは、特にお婆さんたちが掃除や花を供えたりしています。毎年、菩提寺の四つの寺が協力して、年番で小学生たちに白い象の姿をした甘茶の山車を引かせて花祭りの行事を行い、供養しています。

閻魔像の回り一円は、花崗岩の土砂が流れ込んでいて今はなだらかな傾斜になっていますが、元は平坦地だったところです。これは、古絵図に示されているように少菩提寺の施設があったということで、閻魔像より上の方にも多くの平坦地が残っています。

●この文章は、生前の鈴木さんの講義を録音したテープから起こしたものです。





高橋潔と大阪市立聾唖学校

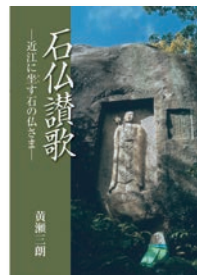
手話を守り抜いた教育者たち

川渕依子 著

A 5判上製本 総310頁 定価2520円

書店にて発売中

大正から昭和にかけて口話法教育が広まる中、手話を守り抜いた大阪市立聾唖学校。校長・高橋潔と、欧米視察で彼を支えた大曽根源助、藤井東洋男ら聾教育者の姿を伝える。



石仏讃歌

— 近江に坐す石の仏さま —

黄瀬三朗 著

B 5判並製本 総150頁 頒価3800円

お問い合わせ先 甲賀市甲南町深川 1650-1 (著者)

優れた中世の石仏が点在して「石の宝庫」といわれる近江。10年かけて撮りためた写真の中から県内95カ所の宝塔や磨崖仏、地藏など掲載したオールカラーの写真集。(2010.2.28刊)



勝島の里 三津誌

三津町まちづくり町誌編纂委員会 編

A 5判上製本 総192頁 非売品

お問い合わせ先 彦根市三津町227 藤野吉治方

(彦根市三津町自治会)

彦根市の南部、宇曽川右岸にある三津町は、江戸時代以来ほぼ300人ほどの人口が続いてきた小さな自治会である。住民アンケートや聞き書きをもとに綴る暮らしの今昔。(2010.3刊)



電車と青春

21文字のメッセージ 2010

石坂線21駅の顔づくりグループ 編

新書判並製本 総92頁 定価630円

書店にて発売中

「時代は変わっても、電車文化は受け継がれているようです」伊万智。電車通学の思い出をテーマに今年も全国から寄せられた21文字のメッセージ。入選作100点を収録。



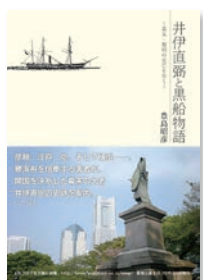
人生は今から1 笑顔は善の波動だ

寺子屋まなざし童心塾 編

A 5判並製本 総224頁 頒価1000円(送料込)

お問い合わせ先 長浜市南高田町7-42 (編者)

創刊25年を迎えた元中学校長ら4人による手作り冊子「まなざし」。掲載エッセイなどをまとめた本書には、笑顔で前向きに生きることを願う思いがあふれている。(2010.5.1刊)



井伊直弼と黒船物語

— 幕末・黎明の光芒を歩く —

豊島昭彦 著

A 5判並製本 総268頁 定価1680円

書店にて発売中

彦根、江戸、京、そして横浜。著者が、開国を決断した幕末の大老・井伊直弼の生涯にそって関連史跡を訪れ、黒船の時代を案内。ブログ連載時から人気の紀行エッセイ。



歌集 風花

仲井みさゑ 著

B 5判並製本 総130頁 非売品

お問い合わせ先 草津市駒井沢町320 (著者)

刈り後の田の面に憩う白鷺の細きうなじに朝の陽注ぐ——四季折々の心模様と、移り行く季節の中での森羅万象を詠んだ300首余りを収めた7年ぶりの第2歌集。テーマ別の中扉に自筆の書画を配す。(2010.5.30刊)



独楽の俳画集

画・文／楠村芳洋

A 4判上製本 総126頁 定価3990円

書店にて発売中

沢蟹の目を立てふさぐ登山道(初めての一句)。趣味で始めた俳画、独り気ままに楽しんで描くから「独楽(どくらく)」なり。吟行に事欠かない滋賀を題材に110余点の俳画を収録。



近江の祭礼行事 1

日吉山王祭

—山を駆け湖を渡る神輿たち—

写真・文／山口幸次

A 5 判並製本 総128頁 定価2520円

書店にて発売中

延暦寺の門前町・大津市坂本で、3月上旬から4月中旬まで1カ月半にわたって繰り広げられる日吉山王祭。駕輿丁経験者が撮影・執筆した「天下の勇祭」のすべて。



滋賀県立大学環境ブックレット 1

琵琶湖のゴミ

取っても取っても取りきれない

倉茂好匡 著

A 5 判並製本 総66頁 定価840円

書店にて発売中

総延長 300m の湖岸に 5 ヶ月で 5 万個ものゴミが漂着。漂着ゴミを毎日調査した結果、見えてきたものとは？ ゴミ問題を平易に語る。



滋賀県立大学環境ブックレット 2・3

フィールドワーク心得帖(上)(下)

滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会 編

A 5 判並製本 総62 / 64頁 定価各840円

書店にて発売中

実地調査に必要なことは？ ものの見方から服装、荒天時の対処法、資料収集やインタビュー、レポートとプレゼンテーションのコツまで、しかと心得るべき点を新入生向けに解説。



食べてげんき

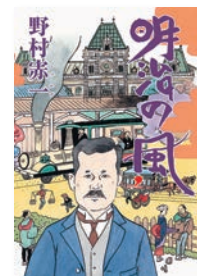
管理栄養士が考えた健康レシピ集

食べてげんき食育グループ 編

B 5 判並製本 総168頁 定価1575円

書店にて発売中

調理法でヘルシーメニュー、食事バランスガイドを用いた食事管理、伝統おせち料理など、普段使う食材を用い食べてげんきになるレシピ188を収録。たちまち重宝。



明治の風

野村宗一 著

四六判並製本 総538頁 定価2100円

書店にて発売中

明治維新の前年、東近江の片田舎に生まれた実在の人物（著者の祖父）を主人公に、関わりのあった後藤新平や新渡戸稲造、星一、夏目漱石など、明治という時代に生きた人々の姿をフィクションも交えて描いた小説。



ちくぶしまほうこんじ

竹生島宝厳寺の歴史と寺宝

—武将たちの信仰と伝来の絵画・書跡—

長浜市長浜城歴史博物館 編

A 5 判並製本 総64頁 定価1050円

書店にて発売中

9 カ年をかけて保存修理された「竹生島文書」の中から、戦国武将たちに関わる文書 20 点と、「絹本着色北斗九星像」、国宝「竹生島経」をはじめとする仏画、書跡を掲載。



糸の世紀・織りの時代

—湖北・長浜をめぐる糸の文化史—

長浜市長浜城歴史博物館 編

B 5 変形並製本 総112頁 定価1890円

書店にて発売中

浜ちりめん、浜ピロード、浜蚊帳という織物文化を生みだした湖北長浜の資料をもとに、失われつつある織物文化の記憶と、織物文化の奥深さを紹介。



びわこ水中考古学の世界

財滋賀県文化財保護協会 編

四六判並製本 総202頁 定価1890円

書店にて発売中

大正時代末に縄文土器が引き上げられた葛籠尾崎湖底遺跡、縄文時代研究に新視点を与えた栗津湖底遺跡、水没伝承の残る尚江千軒遺跡など、数万年におよぶ人々の営みの足跡を残す琵琶湖の湖底・湖岸遺跡の謎に迫る。

おうみ
淡海文庫45

邪馬台国近江説

まきむく はしはか
纏向遺跡「著墓＝卑弥呼の墓」説への疑問

後藤聡一 著

B 6判並製本 総224頁 定価1260円

書店にて発売中

邪馬台国は近江にあった。在京の古代史研究家が、守山市と栗東市にまたがる国内最大級の「伊勢遺跡」に注目し、持論を展開。

おうみ
別冊淡海文庫18

近江の滝

水田有夏志 著

B 6判並製本 総232頁 定価1890円

書店にて発売中

水神として流域の住民に崇められた滝、修験道の水垢離の場として不動明王像が安置された滝……さまざまな伝説や伝承を生んだ滋賀県内の滝46カ所をめぐる自然紀行。

近江旅の本

近江東海道を歩く

八杉淳 著

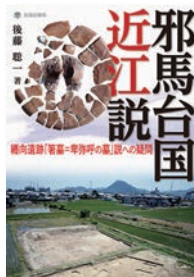
A 5判並製本 総124頁 定価1890円

書店にて発売中

京三条大橋から逢坂の関を越え、大津―草津―石部―水口―土山の各宿場、そして鈴鹿峠まで。近江東海道を歩いて楽しむガイドブック。詳細ルート図付き。

101号を記念して、カラー印刷です（次号以降もその予定）。前号の発行から9カ月近く間があいてしまい、新刊がたまったため展覧会などの催しを紹介するインフォメーションコーナーはお休みしました。情報をご提供いただいている博物館等各位、誠に申し訳ございません。なるべく季刊での発行を心がけますので、今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

㊦



岐阜の山城ベスト50を歩く

三宅唯美・中井均 編著

A 5判並製本 総295頁 定価1890円

書店にて発売中

三大山城のひとつ岩村城、織田信長が天下統一の拠点とした岐阜城、天下分け目の舞台となった関ヶ原の戦いで小早川秀秋の陣地となった松尾山城など、50の山城とともに平城17城を紹介。

静岡の山城ベスト50を歩く

加藤理文・中井均 編著

A 5判並製本 総276頁 定価1890円

書店にて発売中

東国と京を結ぶ結節点として戦乱の舞台となった静岡県。遠江、駿河、伊豆の旧3国別に、後北条、今川、武田、徳川、そして秀吉配下の武将らが築いた合計50の山城の概要と縄張図、番外編として17の平城も紹介。

浜松の城と合戦

みかた とおとうみ
三方ヶ原合戦の検証と遠江の城

城郭遺産による街づくり協議会 編

四六判並製本 総206頁 定価1890円

書店にて発売中

武田・徳川が争奪戦を繰り広げた遠江の城。明らかになった中世から織豊期にかけての城づくりの変遷とともに、三方ヶ原合戦の歴史的評価を小和田哲男、漫画家・宮下英樹を交えて語る。

岐阜の山城
ベスト50を歩く静岡の山城
ベスト50を歩く

表紙写真

菩提寺山の石仏群

撮影者：廣瀬保さん（儀平塾）

平成21年（2009）2月に、菩提寺まちづくり協議会の文化芸術事業として「歴史の小径」の造成を手がけることになり、旧墓地周辺や「歴史の小径」の周りに転がっていた石仏を集めたものです。

写真の石仏は、一般には「お地藏さん」と呼ぶ人が多いですが、地藏菩薩ではありません。中世から江戸初期にかけて、極楽での救済を願って墓に並べて置かれた阿弥陀仏の一石一尊仏、阿弥陀仏とお釈迦様の一石二尊仏です。墓石にあたる一石五輪塔もたくさん集められました。

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

お申し込み先

〒522-0004

滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社

Duet編集部

TEL (0749) 22-0627

FAX (0749) 23-7720

（振替）01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>